

平成23年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価総括評価表

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	数 値 目 標					具体的 数 値	評価サイクルの検証	学校関係者 の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
					D	C	B	A	S				
1 学校運営の充実 1)校内各組織の連携を強化して機能的な運営を図り、よりよい学校づくりに努める。 2)家庭や地域、同窓会との連携を図り、地域に信頼される学校づくりに努める。	PTA・同窓会と円滑な連携を図る。	渉外	PTA 総会への参加率を昨年度より2%増しの40%以上にする。	B	～10	11～30	31～40	41～55	56%～	34%	総会への参加率は昨年と同じ数値であった。	PTA 総会や各種行事に関する内容についてもホームページを有効に活用し保護者との連携強化を深める。 開催日を日曜日に設定するなど、参加しやすい日程に努めた。次年度も更なる工夫に努める。 講習会の実施とともに、ホームページの重要性を教職員がより意識できる計画が必要である。	
			進路保護者会への参加率を40%以上にする。										B
	学校の情報を詳しく早く発信する。	情報・視聴覚・研究	C	～49	50～74	75～84	85～89	90%～	70%	新ホームページになり、更新が容易になった。講習会実施や支援の結果、更新に関わる人数は増加したが、目標値には届かなかった。			
2 人権教育の推進 あらゆる機会を捉えて人権尊重の精神の育成を図る。	人権意識の高揚を図る。	人権	学年研修会を各学年で年4回以上実施する。	B	1	2	3～5	6～9	10回～	5回	1・2年生で5回、3年生で4回、HR前の研修会を実施し、併せて各学年で研究授業後の研修会を1回ずつ行った。	課題：人権尊重精神の育成 改善方策：人権教育 HR 活動をはじめ、学校行事や各教科における人権教育など、校内人権教育活動全般にわたっての見直しが必要である。そのためには広く意見を募り、人権教育課や人権教育委員会などで検討する必要がある。また人権教育啓発活動の機会を増やし、常に生徒が人権について意識できる環境作りも重要である。	
			「学校生活全体を通じて、人権尊重の精神が養われている」と思う生徒の割合を70%以上にする。										C
3 学習指導の改善と確かな学力の向上 1)研修や研究授業で、指導力の向上に努める。 2)家庭学習習慣の確立を図る。	研究授業や研究協議、公開授業を実施する。	教務	研究授業・研究協議を5教科で年間1回以上実施する。	C	0	1	2	3～4	5回～	1回	2回以上予定していたが、1回の実施にとどまった。	教職員が互いの授業を参観するなどの取組を通して、引き続き指導技術の向上を図って欲しい。	来年度も実施したい。行事等のため実施しにくい現状があり、検討が必要である。 授業が最も重要な教育活動であるとしっかり認識して日々の授業に取り組む必要がある。そのためにも、授業評価の結果を真摯に受け止め、自らの授業の課題や課題点をきちんと把握し、その改善に努めなければならない。
			授業評価で説明がわかりやすいと答える生徒の割合を60%以上にする。										
	ICTを活用した授業を行う。	学向	ICTを利用した授業を実施した教職員の割合を80%以上にする。	D	～49	50～74	75～84	85～89	90%～	48.7%	数値目標には届かなかった。	ICTの活用はわかる授業を実現するための手段である。%にとらわれ過ぎることはないが、積極的に利用して欲しい。 ICTを利用した授業は生徒の興味・意欲・関心を高めることから、学力向上には有効である。今後は、全教職員が工夫をしたICTを積極的に活用した授業展開に努めたい。	

平成23年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価総括評価表

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	数値目標					具体的数値	評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策		
					D	C	B	A	S						
	家庭学習時間の確保を図る。	進路	1年の家庭学習時間が2.0以上	C	B	～0.5	0.6～1.5	1.6～2.5	2.6～3.5	3.6～時間	2.0時間	1年生の平均は2.0時間、2年生は2.14時間、3年生は2.28時間と、1学年を除く学年で目標を達成することができなかった。	生徒の学習時間を確保するために、例えば創立90周年記念事業で自習室を作るなどして欲しい。	日々の学習記録をとり、学習状況の把握に努めた。また週末には各教科で学習課題を出し、学習習慣の定着が図られるよう努めた。今後は学年間、教科間で更に連携を密にし、取組の効果を高めたい。	
			2年の家庭学習時間が2.5以上		B	～1.0	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～3.5	3.6～時間					2.14時間
			3年の家庭学習時間が3.0以上		C	～1.0	1.1～	2.6～	3.6～	4.6～時間					2.28時間
	読書活動の充実を図る。	図書	読書が好きな生徒の割合を80%以上にする。	C	～49	50～74	75～84	85～89	90%～	74%	「朝読」が読書習慣の定着に役立ち、「図書館便り」は生徒の原稿が中心となってきた。	読書好きの生徒の割合が増え、「図書館便り」発行の企画・紙面づくりまで生徒が担えるようになることが最終目標である。			
図書館からの貸出冊数を1人当たり7冊以上にする。			C	～5.5	5.6～6.5	6.6～7.5	7.6～8.5	8.6冊～	6.5冊	「図書館便り」の本の紹介を阿波高図書館にある本とし、まず図書委員が図書の本になじむようになった。	図書館や図書館の本に親しみをもつ生徒を一層増やしていく。				
<b>4 生徒指導の徹底</b>	遅刻防止指導の充実を図る。	生徒	遅刻者を1日平均10名以下にする。	B		13～	12～8	7～3	2～0人	約12名	2学期後半から遅刻者が増加し、合計として昨年並み。	傘さし運転をしている自転車通学生が多い。指導の必要がある。学校の近くに見通しの悪い危険な交差点があるので注意するよう指導しておいて欲しい。	5分前登校が習慣化するよう指導方法を工夫する。		
			基本的な生活習慣の定着、交通安全教育の推進に努める。		交通マナーの向上に努める。	B	A	～5	6～8	9～10	11～	13回～	11回	毎月、20日の登校指導は8月以外は実施できた。	登校指導や毎日の校門指導を継続的にを行い、交通安全意識の向上を図る。
					実技講習会を年1回以上実施する。		B		0	1	2	3回～	1回	原付バイク実技講習会は2年生43名を対象に実施できた。	引き続き関係機関と連携し自動車教習所のコースを借りて実技講習会を充実させる。
	悩みを持っていたり、特別支援の必要な生徒への対応を早くする。	相談	不適応生徒がいないか、担任等に年3回以上声を掛け調べる。	B	0	1～2	3～4	5～6	7回～	2回	悩みの調査は目標通り行えたが、正副担任や学年主任との連携がまだ不十分である。	特別な支援の必要な生徒が少人数ながらいるようである。そうした生徒への対応をより整えて欲しい。	定期的連携と、保健室との連携を密に行える方法を考えたい。		
生徒に対し、悩みの調査を年2回行う。			B	0	1	2	3	4回～	2回						
<b>5 進路指導の充実</b>	長期休業中及び土曜日の有効活用を推進する。	進路	長期休業中の補習の内容に満足していると答える生徒の割合を75%以上にする。	C	～49	50～69	70～79	80～84	85%～	63%	満足していると答える生徒の割合は63%と、数値目標を達成することはできなかった。		内容の充実とともに、出席状況改善のために教科担任とクラス担任の連携の強化を図る必要がある。		
			土曜日の補習に出席して力がついたと答える生徒の割合を65%以上にする。	B	～44	45～64	65～75	76～84	85～100%	71%	力がついたと答える生徒の割合は71%と数値目標を達成することができた。			今後も補習授業の内容の充実を図るとともに、部活動等と連携をとり、受講した生徒がそれぞれの講義に支障なく参加できるように努める。	

平成23年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価総括評価表

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	数値目標					具体的数値	評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
					D	C	B	A	S				
	進路に向けた意識を早くから持たせ、進路実現を図る。	進路	進路検討会を4回以上する。	C	~2	3	4	5	6回~	3回	3回実施し、生徒一人ひとりが自らの能力や適性にあった進路選択ができるように努めた。		進路実現に向け、学校全体で取り組んでいく。また指導のノウハウの共有にも努める必要がある。
			国公立大学合格者数70名以上		C	44	45~64	65~74	75~84	85人~	50名		
			難関大学(旧帝大・神戸大等)合格者数5名以上	D	1	2~4	5	6	7人~	1名	合格者は1名に止まり、数値目標を達成することができなかった。		
			センターを課さない推薦入学合格者数13名以上	B	~6	7~10	11~	16~21	22人~	14名	合格者は14名と数値目標を達成できた。		
			センターを課す推薦入学合格者数13名以上	B	~6	7~10	11~15	16~21	22人~	13名	合格者は13名と数値目標を達成できた。		
<b>6 特別活動の充実</b> ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動、部活動など、望ましい集団活動を通して、豊かな人間性や自主的・実践的態度の育成を図る。	学業との両立を図りながら、部活動の充実を図る。	特活	部活動の入部率を80%以上にする。	A	~49	50~75	76~84	85~94	95%~	92%	1年生の入部率が非常に高かったため全体として90%を超えた。	全体の入部率が高いが部によっては、部員の数が減少して、活動に支障が出ている部もある。	文武両道を目指す上で、全員登録にすることも可能であれば考えたい。
			生徒会活動の活性化を図る。	A	~549	550~699	700~849	850~999	1000人~	863人	前日が台風で休校であったが、多くの方に来校していただいた。		さらに内容を充実させ1000人以上の来校者を目指したい。
			全国・四国大会に10以上の部が出場する。	B	~6	7~9	10~12	13~15	16部~	全国5 四国6	昨年度より多くの部が全国大会に出場できた。		運動部4、文化部1の割合で全国大会に出場しているが、運動部3は個人のみであり、団体競技での出場が増えて欲しい。
<b>7 環境教育の充実</b> 校内環境の美化に努め公共心や奉仕の精神の育成を図る。	「地球環境を守る日」を実施する。	環境	校内外敷地周辺の清掃活動「地球環境を守る日」を年間3回以上実施する。	A	0	1~2	3~4	5~6	7回~	5回	5月のゴミの日、6月、10月、12月、2月の地球環境を守る日で、予定通り実施した。		参加者がクラスによって多少偏る傾向がみられる。全体への周知をもっと行う必要がある。
			「学びの手帳」を年1回以上活用する。(利用率)	B	~9	10~14	15~49	50~74	75%~	28.5%	活動時に押印しているが、忘れたり紛失したという生徒も時々いるので再発行している。		学びの手帳の本来の目的による使用はできていないようなので、その存続をどうするか検討する。